

私立大学図書館協会2013年度第1回国際図書館協力委員会議事要録

- ・日 時 2013年4月26日(金)14:30～16:30
- ・場 所 関西大学総合図書館第2会議室
- ・出席者 齋藤和子(早稲田) 豊満朝子(明治) 山岸拓郎(専修)
 袁島智子(中部) 臼井文子(立命館) 金 東溍(関西)
- ・事務局 加藤 勝(関西) 濱生快彦(関西)
- ・配付資料
 - ・委員会カレンダー(案) (資料1)
 - ・各回の委員会審議事項一覧 (資料2)
 - ・2012年度決算と予算 (資料3～5)
 - ・2013年度第1回寄贈資料搬送事業実施について (資料6～14)
 - ・2014年度海外派遣研修の参加者募集について (資料15～18)
 - ・2013年度海外集合研修の参加者募集について (資料19～20)
 - ・2013年度海外認定研修の参加者募集について (資料21～22)
 - ・(参考)2012年度国際図書館協力シンポジウム実施案(抜粋) (資料23)
 - ・基金支援企業一覧 (資料24)
 - ・2012年度東西合同役員会資料(抜粋) (資料25～28)
 - ・2010年度事業計画における研究助成および研修補助について (資料29)
 - ・2010年度海外認定研修チラシ (資料30)
 - ・2011年度～2012年度の本委員会の活動報告 (資料31～35)

第1回委員会であるため、慣例により委員長の選出までは会長校選出委員・臼井氏を仮議長として議事を進行した。

議事に先立ち出席者の自己紹介が行われた。

・審議事項

1 委員長の選出について

国際図書館協力委員会設置要項第5条により、委員長を委員の互選により選出することを確認した後、臼井委員より金委員を委員長に推薦したい旨提案があり、異議なく了承された。

2 2013年度特別会計予算について (資料4～5)

委員長から標記について概略次の説明があり、異議なく了承された。

- ・一般会計から特別会計に国際図書館協力事業支援費として250万円が支出されている。昨年度より100万円の減である。これは本年度は国際図書館協力シンポジウムを開催しないためである。
- ・国際図書館協力特別会計「収入の部・基金」＝「企業からの寄付」は2012年度の実績を考慮し、50万円減の100万円で計上した。

- 3 寄贈資料搬送事業について (資料6~8, 資料9~11, 資料12~14, 資料25・27)
委員長から次の説明があり、確認された。
- ・例年どおりの実施を予定している。第1回事業は4月1日付で私立大学図書館協会加盟館に案内され、現在募集中である。
 - ・第2回事業についても配付資料の実施案内案のとおり、例年どおりである。
 - ・2011年12月2日付の実施要領の改訂で、関税に関する取り扱いなどが変更されている。
- 4 海外派遣研修について (資料15~16, 資料17~18)
配付資料の参加者募集案にもとづき、締切日と派遣先について協議した。
- ・来年度もイリノイ大学モーテンソンセンターに派遣する場合、12月初めがモーテンソンセンターへの申し込み締め切りとなるので、本委員会への申し込み締め切りは例年どおり10月中旬とするのが妥当であろう。
 - ・以前日本から研修者を受け入れていたオハイオ大学およびハーバードイェンチン研究所が現在も受け入れを行っているならば、派遣先候補として検討できる。
- 次回委員会では上記のことを踏まえて標記募集要項を審議することになった。
- 5 海外集合研修について (資料19~20, 資料25・27~28)
協議の結果、企画とプログラム作り・交渉を関西大学が行なうことになった。
委員長より次の説明があった。
- ・まだ研修先は決まっていない。本年7月には参加者を募集する予定なので、企画作りを急ぎたい。
 - ・標記研修は毎年、個人のツテと好意に頼って実施している。1年目は受け入れてもらっても、2年目は負担が大きすぎると断られ、研修先を探すのに苦慮している。
- 上記のことを踏まえ、今後は研修先に機関として組織的に受け入れてもらい、研修プログラム実行料としてその機関に講師料などの経費を支払うようにしたいと、委員長より提案があった。各委員はこの提案を持ち帰り検討することになった。
- また標記研修の発着地について、経費の許す範囲内で参加者の住所地に応じて東京以外に関西からも出発・到着させることを検討することになった。
- 6 海外認定研修について (資料21~22, 資料26・28, 資料29~30)
委員長から、標記研修は好評なので予算を使い切りたい、については二次募集の実施、または募集期間を大幅に延長し、一次締め切り・二次締め切りを募集案内に設けることの提案があった。
- 次回委員会において提案の趣旨を盛り込んだ募集要領を審議することになった。
- 7 国際図書館協力シンポジウムについて (資料23)
協議の結果、関西大学が企画立案することになった。
委員長より次の説明があった。

- ・来年度の 2014 年 11 月ころに開催する。会場は関西大学 100 周年記念会館を予定している。

委員長より、後日、招へいした講師に関西大学の費用負担で関西大学主催行事に参加してもらってもよいかとの提議があった。協会主催行事と関西大学主催行事に混同がなく、経費が明確に区分され、このことで発生した追加の宿泊費などの費用を関西大学が負担すれば支障ないと、委員会として了承された。

8 国際図書館協力基金への支援依頼について (資料 24)

配付資料により標記基金への支援企業を確認した。次回会議において支援依頼の分担を行なう。

9 今後のスケジュールについて (資料 1~2)

配付資料により、今後のスケジュールの概略を確認した。海外派遣研修の応募者面接日の設定如何で、10 月以後の日程は流動するので、委員長が精査のうえ改めてスケジュール案を提示することになった。

10 メーリングリストの利用について

メンバーだけを書きかえて、例年どおり利用することになった。

・報告事項

1 2012 年度特別会計決算について (資料 3)

基金収入が 40 万円の減、事業活動費が 200 万円の残となった。

2 海外派遣研修の進捗状況について

委員長より、本年度派遣者の亜細亜大学・藤懸氏の出張準備が順調に進んでいることの報告があった。

・懇談事項

1 海外研修の参加資格について (資料 29~30)

委員長から派遣研修と集合研修の参加者資格に教員(図書館長など)を含めたいとの提案と次の説明があり、種々懇談した。

- ・東地区と西地区の部会総会で海外認定研修の導入の趣旨説明をした時、図書館職員の減少や業務の外部委託化の進展で小規模大学・医学薬学系大学では海外研修に参加できる事務職員がいないという意見があったことを考慮し、資格者に教員(図書館長など)を加えた。
- ・派遣研修と集合研修についても事情は同じだと考える。
- ・海外認定研修と同様、教員の視点から、レベルの高いフィードバックが協会にあることを期待する。

2 協賛企業との交流会の開催について

委員長から標記の参加者・財源・会の内容について説明と提案があり、概略次のような懇談を行なった。

- ・海外認定研修のプレゼンテーションの場としても活用したい。
- ・国際図書館協力シンポジウムの意見交換会は、企業は招待者として参加費が無料であるので、これを交流会とすることも可能であろう。
- ・委員長は、参加者・財源・会の内容について練り上げ、趣意書を作成しあらためて提示する。

3 海外認定研修採択者の研修報告の場の提供について (資料 29～30)

委員長より、協会の地区協議会総会・研究会・研修会などで、標記採択者がプレゼンテーションする機会を持てるよう努力したいと提議があり、種々懇談した。

- ・標記制度の立ち上げ時の目論見では、プレゼンをすること自体を研修の一部と考えていた。
- ・場を提供する側のメリットとして、会のプログラムが豊富になり、活性化されることも企図した。
- ・2011年度第1回阪神地区研究会で武庫川女子大学・川崎安子氏の報告を聴く機会があった。優れた内容であり、聴衆の反応も良かった。

また、標記採択者に課される報告書の分量を軽減することについても意見交換した。

4 2011年度～2012年度の活動報告について (資料 31～35)

2013年3月8日開催の2012年度第2回東西合同役員会資料「国際図書館協力委員会2011～2012年度活動報告」に基づき種々懇談した。

以上